 ©2020 筑波大学生物学類

令和元年度卒業研究発表会要旨の巻頭にあたって

川本　晟司（筑波大学 生物学類）

卒業研究発表会は、生物学類の集大成といっても過言ではない素晴らしい会です。私たちは講義や実習を通して大学４年間で生物について学び、そしてこの４年生の時期を卒業研究のために費やしました。その費やした時間を、努力を、ともに歩ませてもらった皆さんの前で発表することができることを本当にうれしく思います。

１年生で習った『基礎生物学実験』に私はとても衝撃を受けたことを覚えています。スケッチの細かさ、実験段取りの複雑さ、データ収集の膨大さ等、どれをとっても私には高等で新鮮で、そして実験や実習とはこんなにも楽しいものなのだと興奮し、そのような環境に自分が居ることに満足感を得ていました。１年生で基礎的な実験や講義を学び、２、３年生になってより専門的な生物知識を収集した私たちはそれを生かして研究に臨みました。しかしその３年間で積み上げてきたものではとても足りないほど、研究は大変なものとなりました。実験が思うようにいかない、結果が自分の想定通りにならない、期限までに間に合うか分からないなど様々な苦しみを４年生は体験してきたのではないでしょうか。その苦しみも素晴らしい結果が出たときの喜びも一緒に合わせて、自身の成果をこの発表会にぶつけてほしいと思っております。

卒業研究発表委員会に私は２年生から所属していたのですが、その時は具体的なものが何も見えないまま、先輩に先導されて仕事をこなしていました。そして委員会では中心的な３年生になり、当時の３年生の皆さんや先生方からの支えを受けながら、発表会の運営をつつがなく終えることができました。その時私は４年生の発表が良いものであることが、より発表会を内容の濃いものにすることができると感じました。その役目を今年私たちが引き受けることになり、後輩に向けて卒業研究について正確に知ってもらうため、４年生は発表に真摯に向き合って頂きたいです。

２年生の皆さんにはこの発表を通して今後自分がどのような研究をしたいか、どの研究室に入りたいかを考えるいい機会になれば幸いです。そして３年生の皆さんには来年度の自身の研究の参考になる発表会となることを期待しております。またこの卒業研究発表会の準備・運営をしていただけたこと、心より感謝しています。そして、指導教員の方々にはこの１年間私たちの研究を支え、この発表会まで私たちの研究を導いてくださったこと、本当にありがとうございました。重ねてこの場で感謝の意を述べさせていただきます。

最後になりますが、多くのことを経験し過ごしてきたこの大学４年間を糧に、私たちは卒業します。お世話になった方々の思いを背負いながら様々な進路で活躍していくことを心に決め、歩みだしていこうと思います。

Communicated by Jun Furukawa, Received December 23, 2019.